

最先端 3Dデジタルものづくりセミナー

ジェネレーティブデザイン・トポロジー最適化対応 アディティブマニュファクチャリング紹介セミナー

3Dデジタル技術の革新により、軽量化を図りながら同時に強度を確保するというデザイン手法の取組が、次世代ものづくりとして、自動車、航空機産業などで始まっています。この取組により、これまで作れなかった形状が可能となり、設計及び製造において、非常に魅力的なデザイン手法として期待されています。この手法の実現のためには、ジェネレーティブデザイン（GD）、トポロジー最適化、ラティス構造形状技術、CAE技術の融合したデザイン、およびアディティブマニュファクチャリング（AM）とCAEが、融合した製造技術が必要とされます。これは、高度なものづくり技術となりますが、次世代ものづくりへ非常に大きな影響を与えることが想定されています。

今回は、これら一連の最新技術と、その中でアディティブマニュファクチャリングとして解析を用いて最適造形条件導く方法などをご紹介します。併せて、電子ビーム金属積層造形システムを実際にご覧いただけます。是非、この機会に御参加ください！

日時
2019年 3月 7日（木） 13:30 ~ 17:00
会場
岩手県工業技術センター 大ホール
定員
80名
特別講演


ANSYSによるLB-PBF法（レーザ式粉体床熔融法）の溶融凝固熱伝導解析

講師：近畿大学 次世代基盤技術研究所（TRAFAM兼任）准教授・博士（工学）池庄司敏孝氏

金属Additive Manufacturing（AM）技術の中でもLB-PBF法（レーザ式粉体床熔融法）の導入が進んでいるが、造形条件の選定には比較的時間が掛かる。そこで、ANSYSを用いてレーザ走査部周りの温度環境と溶融凝固条件を検討し、過渡伝熱解析することによりメルトプールの寸法等を予測し、最適造形条件を導く方法を解説する。

技術セミナー

ANSYSによるAdditive Manufacturingへのシミュレーション活用

講師：サイバネットメカニカルCAE事業部 メカニカル技術部 大澤 宜紀氏

金属AMはコストダウンや開発期間の短縮、軽量化、部品点数の削減などに大きなメリットをもたらすが、過度の歪みやクラック、ブレードクラッシュなどの課題が多く、ボタン1つで造形できるものではない。そこで、これら課題を解決するためにANSYSの解析ツールをご紹介します。金属AMの為のものづくりをサポートする。

見学
岩手県工業技術センター内設備見学：電子ビーム金属積層造形システム他

問合せ・申込方法

- ・問合せ：いわてデジタルエンジニア育成センター 担当 黒瀬（0197-62-8080）
- ・申込方法：ホームページまたはメールによる申込み ※申込期限 3月5日（火）まで
- ・宛先：iwatedeinfo@iwate-de.jp
- ・記載事項：講習名、会社名、所属、役職、名前、住所、電話番号、Email
※返信メールをもって、申込み受理といたします。

主催：（株）北上オフィスプラザ ・ いわてデジタルエンジニア育成センター

共催：（地独）岩手県工業技術センター